

宗岡二中だより

7月号



令和6年7月1日

自ら学び考える生徒
学校教育目標：心豊かな優しい生徒
明るく元気な生徒

「なやんでるひまに、一つでもやりなよ」

校長 伊藤大輔

なぞなぞです。5つヒントを出します。

- 常にあなたのそばにいて、一番頼れる助っ人になったり、一番厄介な重荷になったりします。
- あなたが前に進めるように背中を押すこともあれば、逆に足を引っ張ることもあります。
- どうするべきか、はっきりと指示を出す必要はありますが何度か練習すれば、後はひとりでもやってくれます。一人一人の素晴らしい人間のしもべでもあり、残念ながら全てのダメな人間のしもべでもあるのです。素晴らしい人はよりすばらしく、ダメな人はもっとダメになります。
- 機械ではありませんが、正確で、しかも人間の知能を使って仕事をこなします。ためになることも、損になることにも使えます。
- これを手に入れ、厳しくしつければ、世界はあなたのもの。甘やかせば、待っているのは破滅。

正解は・・・習慣です。ヒントを読むことで「良い習慣」と「悪い習慣」があることにも気付きましたか。では「良い習慣」に関して、ある話を紹介します。

調理専門学校校長、上神田梅雄(かみかんだうめお)氏は学校を卒業後、自分の師匠の紹介でいくつかのお店で修行をしました。ある店で働いているとき、気になって仕方がないことがありました。厨房で使っているアルミ製の鍋のことでした。15個くらいありましたが、長年使い続けているため、ひどく汚れて傷んでいたのです。以前働いていたお店では毎日ピカピカに磨き上げていたので余計に気になりました。そこで上神田さんは、お店が終わってから毎日全部の鍋を新品同様に磨きました。

すると、その店で三十年以上働いているベテラン調理師が上神田さんを叱りました。新入りが古い鍋を捨てて勝手に新しい鍋を倉庫から出したと勘違いしたのです。つまり、それほどピカピカに磨き上げられていたのです。上神田さんの誤解は解け、「すごい新人がいる」との噂は店中に一気に広まり、社長に伝わり、師匠の耳にも届きました。上神田さんは入店して一週間でお店の人に受け入れられたばかりか、料理界でも注目を浴びたのです。

上神田さんはなぜ鍋を磨いたのでしょう？評価を上げたいためではないですね。みすばらしい鍋を目の前にして、磨かずにはいられなかったのです。いつの間にか身に付けていた良い習慣で行動した結果、料理人としての大きな一歩を踏み出すことができたのです。

良い習慣と言えば「8時間以上の睡眠」「朝1時間の学習」「机周りの整理整頓」などが思い浮かびます。繰り返しが肝心です。しかしいざ実行に移そうとすると嫌だなあ面倒くさいなあと思い悩む自分が登場します。そんなときタイトルに示した猫型ロボットのセリフが私の頭をかすめます。

実はこのところ「宗二中生がんばっているね」と地域から私宛に手紙が届いたり、声を耳にしたりする機会が増えました。嬉しいことです。みなさんが「言葉・笑顔・挨拶」を習慣に変え始めた証しです。間もなく長い夏休みに入ります。学校を離れるからこそ、自分を甘やかさないで自分を律する力が試されます。いつ・どこで・誰に会っても胸を張って正しく行動できる宗二中生でいてください。